

子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ

子どもゆめ基金

ガイド2024

．．．．．も・く・じ．．．．．

令和5年度助成活動事例 ◆子どもの体験活動◆

自然体験	にいがたワクワク冒険隊 2023 春 実施団体 / 新潟青陵大学ばらくと	．．．．．1
科学体験	子どもたちによる子どもたちのロボット教室 アドバンスコース 実施団体 / 子どもたちによる子どもたちのロボット教室@京都	．．．．．3
交流体験	子ども・若者を真ん中に「四街道こどもまちづくりプロジェクト」 実施団体 / 四街道こどもまちづくりプロジェクト実行委員会 集まれデフキッズ！東松島で自然×スポーツ交流キャンプ 実施団体 / 特定非営利活動法人 ハートフル福祉募金	．．．．．5 ．．．．．7
社会奉仕	「田んぼの学校」指導者養成研修（里山環境教育編）in 茨城 実施団体 / 一般社団法人 地域環境資源センター	．．．．．9
職場体験	第4回「グッジョブ！やるキッズ！」 実施団体 / くまもと中小企業魅力発信委員会	．．．．．11
総合・ その他の体験	お絵描きコミュニケーションと宇宙船地球号ミッション！ 実施団体 / 特定非営利活動法人 こどもサポートふらの	．．．．．13
読書	見えない見えにくい子どもと本をつなぐ 実施団体 / NPO法人弱視の子どもたちに絵本を えほんで楽しくファンタジア 実施団体 / フリューリング絵本部「ファンタジア」	．．．．．15 ．．．．．17
教材	めざせホワイトハッカー！体験から学ぶ情報セキュリティ 実施団体 / 一般社団法人 未来キッズコンテンツ総合研究所	．．19

イラスト／西村 キヌ



子どもの体験活動・読書活動への助成を行っています



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

にいがたワクワク冒険隊 2023 春

＜実施団体＞ 新潟青陵大学ほらくと

- 活動期間 2023 年 7 月 29 日（土）
日帰り 1 回
- 活動場所 新潟県少年自然の家（胎内市乙字大日裏）
- 募集地域 新潟県内
- 募集対象 小学生（1～6 年生）、中学生、高校生
- 募集方法 その他（連携児童養護施設あり）
- 構成員数 5 名

活動を通しての SDGs への取り組み

子ども達の自主性や想像力を養い、社会の中で生きぬく力、強靱性（レジリエンス）を身につけてもらう場を提供することにより、SDGs の 17 の目標のうち「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「4. 質の高い教育をみんなに」「10. 人や国の不平等をなくそう」の 3 つに焦点を当てて企画をしています。

活動のねらいとポイント

児童養護施設に暮らす子供の自主性と想像力を養い、個々がそれぞれ生き抜く力をもつことが必要です。そのため、団体では、SDGs を考慮した子供達の 10 年後を見据えたプログラムを展開をしています。本活動では「1st practice」をコンセプトに異年齢の仲間と自然の中で過ごし年齢と仲間に合わせて自分の居場所を確立することを目指して実施します。



カヌー体験



野外炊事

具体的なプログラム名	主なポイント
地図を頼りに！野外ウォークラリー（仲間作りプログラム）	グループダイナミックスの概念を念頭に幅広い年代での仲間づくりを目指す。一緒に活動する仲間たちとの気持ちの統一を図る。※マスクの着用、グループ編成等感染対策を徹底する。
カヌー体験	川に親しみつつ、危険性の予知・克服、未知への挑戦などの体験をさせる。克己心を養い、陸から見る景色、陸で聞く音、感じる風など、自然の中でしか味わうことのできない感覚を感じてもらう。
野外炊事	仲間と共に作った立ち竈で野外炊事を行う。決まった時間の中で全員で協力して役割を分担し調理することで、社会性を高める。※マスクの着用、使用物品の消毒、グループ編成等感染対策を徹底する。

参加者の安全対策・健康管理

＜安全対策＞ 事前に会場職員と連携・確認を行うと共に、養護施設の職員とも児童の特性や現段階の課題を共有し、想定されるリスク等を踏まえて対応策を考える。また、水辺のプログラムの為、ライフジャケットを必ず着用させ、スタッフが常に安全管理に努めると共に問題点は都度共有し配慮する。※障害児も受け入れ、対応する。

＜健康管理＞ 事前に施設職員と連携しながら個々の健康状態（病歴やアレルギー等）や配慮事項を明確にしておく。アレルギーについては会場の担当職員とも連携を行い、徹底した対応を行う。新型コロナウイルス感染拡大の影響により「新しい生活様式」を取り入れた活動、そして対策の「見える化」を実施する。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/29	8:00	新潟駅 集合・出発
	8:45	新潟県立少年自然の家到着→開会式オリエンテーション実施
	9:00	地図を頼りに！野外ウォークラリー（アイスブレイク含む）
	10:00	カヌー体験
	12:30	野外炊事
	15:30	振り返り活動、閉会式
	17:00	新潟駅解散

活動の成果と課題

本活動は、コロナ禍で制限されていた集団活動の再開を待ち望んでいた児童養護施設に暮らす子供たちにとって、非常に有意義なものとなりました。仲間とともに一緒になってプログラムを実施する過程の中で、想像力を発揮していたことを踏まえると本企画の目的を達成できたと考えています。また、障害児の参加もあったことにより、スタッフ側の準備も大変ではありましたが、サポートスタッフの支援もありインクルーシブを目指す本活動の当初の目的も達成できました。児童養護施設に暮らす子供たちは多様な配慮が必要であり、児童養護施設側との綿密なコミュニケーションを取りながら参加者の人数確保に努める点が課題であると考えています。



野外炊事



開会式



野外ウォークラリー



カヌー体験

団体概要

＜設立年月＞ 平成 25 年 4 月

＜設立の経緯＞ 平成 23 年 3 月から東日本大震災復興支援のためにボランティアバスの 10 回以上の派遣に至りました。その後、「東日本大震災を考える会」を教職員と学生により開催をきっかけに、継続的な支援を行うことや広くボランティア活動を行うため、2014（平成 26）年 4 月に学生ボランティアコーディネーター「ぼらくと」が発足しました。

ボランティアセンターでは、ボランティアを希望する学生の相談に応じています。学生ボランティアコーディネーター自身のスキルアップ事業も行い、コーディネーション技術の習得に積極的に取り組んでいます。現在は、被災地支援に加え、イベントなどを企画・運営、地域イベントでのボランティア活動、その他ボランティア活動の斡旋や学内の学生サポート、団体の PR 活動など幅広く行っています。

＜目的＞ 様々なイベントの企画や運営を行い、ボランティアを希望する学生に対してコーディネートを行い、ボランティアを始めるきっかけをつくることで、ボランティアを学生に広めていくことを目的としています。

＜構成＞ 新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部の学生、及びボランティアコーディネーター（ぼらくと）OBOG（卒業生）約 60 名で構成しています。

子どもたちによる子どもたちのロボット教室 アドバンスコース

＜実施団体＞ 子どもたちによる子どもたちのロボット教室@京都

- 活動期間 2023年4月9日（日）～2024年3月3日（日）
日帰り12回
- 活動場所 公益財団法人京都高度技術研究所 8F フリースペース①②
- 募集地域 京都府京都市内
- 募集対象 小学生（1～6年生）、中学生
- 募集方法 チラシ（配布先：ひとまち交流館京都 / 下京区役所）
その他（京都リサーチパーク株式会社 / 公益財団法人京都高度技術研究所 / 子ども若者はぐくみ局はぐくみ創造推進室）
- 構成員数 3名

活動を通してのSDGsへの取り組み

子どもたちによる子どもたちのロボット教室@京都では子供たちがプログラミングロボットを製作するSTEAM教育活動を通して、限りある資源の有効利用について考え実生活に活かすことにより、持続可能な開発目標（SDGs）4「質の高い教育をみんなに」に取り組んでいます。

活動のねらいとポイント

プログラミング・ロボットを教材としたSTEM教育は、論理思考習得を目的とするワークショップであり、参加者が自主的に学習できることが特徴です。ロボット製作・プログラミングを通して、自主的に学びつつ、分からないところがあれば、子どもたちがお互いに教え合うこともできます。そのため、創造力およびコミュニケーション能力の向上が期待できます。プログラムの最後に参加者一人一人にプレゼンテーションを実践してもらうことで、自己表現力を養うこともできます。



ロボット製作の様子



活動の様子

具体的なプログラム名	主なポイント
子どもたちによる子どもたちのロボット教室アドバンスコース	・LEGO MindStorms EV3 プログラミング・ロボット（10セット）等を教材として使用し、論理思考を学んでもらう。 ・ロボットを作り上げ動作させるために、構成部品の構造および組み立てプロセスを通して工学的思考について学び、同時にプログラミングを通して情報処理について学んでもらう。
	・2020年度よりLEGO EDUCATION SPIKE(最新モデル5セット)を採用し、最新のプログラミングの習得を図っている。 ・このコースは、継続的学習効果のねらいもある。
	・LEGO EDUCATION SPIKE(最新モデル10セット)を使用して、可能な限り多くの子どもたちの体験を狙いとする。

参加者の安全対策・健康管理

＜安全対策＞ 保護者同伴にて行い、日常生活傷害保険に加入。常時警備員の巡回、耐震等安全性が確保されている建物にて実施し、安全管理を行う協力者の同席、近隣の京都市立病院とも連携する。使用機材は、LEGO MINDSTORMS EV3 や LEGO SPIKE 等の安全性が担保可能なプログラミング・ロボットを使用する。

＜健康管理＞ 活動時は、水分補給等が可能であり、教室と同じフロアに休憩場所を設けている。徒歩10分圏内に京都市立病院があり緊急時の搬送も可能である。新型コロナウイルス感染拡大対策として、検温、消毒液の用意、マスク着用、3密の防止等を公益財団法人京都高度技術研究所のガイドラインを遵守して行っている。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
4/9	10:30～11:50 11:50～12:00 12:00～12:15 12:15～14:30 14:30～14:50 14:50～15:00 15:00～15:30	指導者集合。準備（使用機材・テーブル等のレイアウト変更）。 参加者集合。着席。 参加者挨拶・自己紹介。 参加者各自が目標とするロボット製作。 参加者によるプレゼンテーション。 後片付け。挨拶。教室終了。 指導者・協力者後片付け。反省会。解散。
5/7～ 3/3	上記内容と同上	上記の内容で実施。このコースは、継続的学習効果が狙いでもあり、習熟した参加者と難易度の高いロボットを製作し仕掛品ができたときは同じ参加者の参加あり。*参加人数に余裕がある場合は、同じ活動を別の参加者を対象として実施する。

活動の成果と課題

STEAM 教育ワークショップの一つとして毎月一回開催しています。「口を出さず、手を出さず、心離さず」を活動指針に「子どもたちの持っている可能性を最大限に引き出すこと」をミッションとし「好奇心・探究心・創造性・感性」をキーワードに実践しています。頭だけ考えるのではなく、手を動かして考える「Think&Works」を基本として活動しています。近頃は小学生同士が教え合い、私たちが目指している子どもたち同士の相互学習が見受けられるようになってきました。課題は、子どもたちの成長に合わせてコンテンツの内容及び質の充実と向上、また、使用機材が高価であり破損・故障などによるメンテナンスが難しいことです。



活動の様子



発表の様子

団体概要

＜設立年月＞ 2015年2月

＜設立の経緯＞ 2015年2月公益財団法人京都高度技術研究所にて、小中学生を対象とした LEGO MINDSTORMS EV3 をしたロボット教室を無料開催しました。その後、参加者の増加により 2015年11月から子どもたちによる子どもたちのロボット教室@京都として活動をしています。また、リベラルアーツ教育の場としての活動にも取り組み、2019年10月より、子どもゆめ基金の助成を受け、海外の留学生（二人）も協力した活動も開始しました。2021年にはデータサイエンス、理科実験、デザイン思考・アート思考のワークショップも開始しました。活動実績は【第8回京の公共人材大賞選考委員特別賞】受賞（2020年7月）。【京都はぐくみ憲章推進実践者大賞】受賞（京都市 2022年10月）。【第一回未来をつくるこどもまんなかアワードこども・若者活動奨励章】受章（子ども家庭庁 2023年11月）。

＜目的＞ 京都市内を中心に子どもたちを対象とした科学体験活動（ロボット教室）を企画・運営し、子どもの健全な育成に努めている。2021年度よりデザイン思考・アート思考も取り入れ、子どもの創造性の向上にも努めている。

＜構成＞ 代表を含む6名の指導者と8名の外部指導者・協力者を有する。

子ども・若者を真ん中に「四街道こどもまちづくりプロジェクト」

＜実施団体＞ 四街道こどもまちづくりプロジェクト実行委員会

- 活動期間 2023年10月8日（日）、10月26日（木）、
10月28日（土）、10月29日（日） 日帰り4回
- 活動場所 四街道市 鷹の台公園
- 募集地域 千葉県四街道市内および千葉市若葉区千城台地区等
- 募集対象 未就学児（1～5歳）、小学生（1～6年生）、中学生、高校生
- 募集方法 チラシ（配布先：市内小学校、中学校公共施設等）
その他（SNS、チラシ掲示）
- 構成員数 5名

活動を通してのSDGsへの取り組み

活動を通してのSDGsへの取り組みとして、目標3【保健】、目標4【教育】、目標11【持続可能な都市】に効果がある取り組みと考えています。

「まちには人が住んでいる」を意識し活動することで、すべての世代の人々が安心して生活できるまちを目指し、まちについて考える機会を提供しています。



活動写真

活動のねらいとポイント

団体では、小学生～大学生が企画したイベントを地域自治会や活動団体、地元企業、社会福祉協議会、民生委員をはじめとする地域の多くの住民の協力のもと実施しています。本活動では子ども・若者が企画を立案し、それに大人が賛同する形式をとっています。そのため、子どもたちの自己肯定感の向上と物事に積極的に挑戦する自信に繋がる効果が見込まれます。また、多世代の交流を促すことで、イベントを通じてできた関係を日常生活につなぎ、安心して生活できるまちづくりに取り組む狙いもあります。



子ども達と一緒に作業（準備会）

具体的なプログラム名	主なポイント
こどもまちづくりプロジェクト	まちに住む人々と子どもたちが交流できるような企画を大学生が中心となり企画し企業の協力も得て実施する。まちの仕組みや経済の仕組み、仕事について考えるきっかけとなるような企画とする。（例／こどものまち、情報端末を使用してのウォークラリー等）地域の大人と一緒に考えたり、一緒に働くことで交流を促す。
プレーパークの開催	イベント当日、誰でも無料で、年齢を問わず集まり交流できる場としてプレーパークを同時開催する。プロジェクトの主となるイベントにしり込みしてしまうようなまだ小さい子どもやその保護者、シニア世代も気軽に立ち寄れる場を併設することで、より多くの住民が関わられるようにする。
洋服交換会	子どもを持つ親世代と地域が協力し、子どもの健やかな成長をサポートするため、家庭で不用となった子ども服や育児用品を交換できる場をセッティングする。新興住宅地が広がる地帯のため、地域の人たちと若い親世代の繋がりを築き、地域で安心して子育てができるような関係性を醸成する。

参加者の安全対策・健康管理

＜安全対策＞ 参加者への説明の徹底。開催場所の前日、実施前に危険箇所を点検する。公園管理者との連絡も密に行い、環境の変化等把握の上で実施する。また、救急セットを用意し、必要時には対応できるよう準備を行う。事故があった場合の対応についてスタッフでマニュアル化する。

＜健康管理＞ 受付に看護師を常駐し、随時声掛けや見回りを行う。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容	月/日	時間帯	プログラム内容
10/8	13:30 14:00 14:00～16:45 16:45 17:00	朝スタッフ集合、打ち合わせ 参加者集合 ①～⑧活動実施 ①大学生企画ウォークアドベンチャー ②大人スタッフとの顔合わせ ③現地確認 ④レイアウト検討 ⑤こどものまち出店内容相談会 ⑥プレーカーを宣伝カーにしよう (プレーカーにお絵描き) ⑦大学生企画カジノ ⑧写真撮影 終わりの会 解散	10/28	9:30～11:00 11:00 11:30～15:00 15:00 16:00 16:30	スタッフ当日打ち合わせ こどものまち、プレーパーク開催準備 参加者集合。はじめての会 こどものまち 出店 市役所での仕事(非常食試食、物品貸し出し、 受付、会場管理、段ボール工作、ゲーム等) 体験 プレーパークの実施(プレーカーお 絵描き、ロープ遊具、おままごと、ピタゴ ラ装置、しゃぼんだま他) ウォークアドベンチャー実施中学生ボラン ティア(地域のゆるキャラとして活動 他) 終わりの会 参加者解散 片付け 解散
10/26	13:30 14:00 15:00 16:00 16:45 17:00	スタッフ集合、打ち合わせ 参加者集合。プレーパーク体験 大学生・地域の大人との交流会/小中学生 出店相談会 会場飾り付け/中学生ボランティア体験(着 ぐるみ体験) 終わりの会 解散	10/29	9:30～11:00 11:00 11:30～14:00 14:45 15:00 16:30	スタッフ集合。事前打ち合わせ～こどものまち、プ レーパーク開催準備。 参加者集合。はじめての会 こどものまち、プレーパ ーク、ウォークアドベンチャー、洋服交換会の実施 市役所での仕事体験(非常食試食、物品貸し出し、 受付、会場管理、段ボール工作、ゲーム等) プレーパーク(プレーカーお絵描き、ロープ遊具、 おままごと、ピタゴラ装置、しゃぼんだま他)の実 施 ウォークアドベンチャー 洋服交換会の実施 終わりの会(参加者解散) スタッフ片付け スタッフ解散

活動の成果と課題

この活動の準備、開催を通してまちに住む子ども、学生、地域住民、地元企業、大学がともに集う機会を実現できたことが大きな成果と考えます。一緒に時間を共有し、大人が子どもに教えるという形ではなく、共に考え場を作り上げたという経験を共有したことで、イベント開催期間以外でもまちで出会ったときに「あの時の」と言えるような関係がいくつも生まれ、みんなにとって安心安全なまちに一步近づきました。課題として、大人のスタッフの不足が挙げられます。「誰かがやってくれる」ということではなく、担い手となる大人をいかに増やすかが、後に地域での活動の人材確保につながり、子ども達が育つ豊かな環境の確保につながると考えます。



中学生ボランティアの
伝統になっている仕事



防災食販売チーム



活動写真

終了後、子ども達と
大学生が公園で遊んで
います。少しずつ関係
ができています。



団体概要

<設立年月>

<設立の経緯> 四街道市と千葉市若葉区の市境にあり、生活圏は千葉市若葉区千城台地区、四街道市中心部からは国道を隔てた立地の吉岡地区で市の境を超え、そこで育つ子どもたちと地域の住民が協力して互いの顔の見える安心安全な地域を目指そうと発足した。鷹の台自治会をはじめとする地域の自治会、民生委員や主任児童員、地域の大学、企業、市民団体が協力し、コロナ禍も休まず活動を続けている。

<目的> イベント開催を通して地域の子どもたち、若者、大人がつながり、顔の見える安心安全な地域づくりを目指す。

<構成> 代表1名、副代表1名、会計1名、役員2名 合計5名の構成員を有する。

集まれデフキッズ！東松島で自然×スポーツ交流キャンプ

＜実施団体＞ 特定非営利活動法人 ハートフル福祉募金

- 活動期間 2023年7月29日（土）～7月30日（日）
日帰り2回、宿泊1回（1泊2日）
- 活動場所 宮城県東松島市 月浜海岸
- 募集地域 青森県、岩手県、宮城県、山形県、秋田県、福島県
- 募集対象 未就学児（1～5歳）、小学生（1～6年生）、
中学生、高校生、保護者
- 募集方法 チラシ（配布先：各聴覚支援学校・聴覚障害者協会）、
その他（SNS）
- 構成員数 5名

活動を通してのSDGsへの取り組み

東日本大震災で大きな被害を受けた東松島市において、聴覚障がいを持つ子ども達と被災地域の人々が自然体験やスポーツ体験をすることで交流をすることはSDGsの複数の事項に関わります。年齢や言葉（手話）などの差も自然体験やスポーツ体験を通して越えて行きました。被災地支援や交流も併せて叶えることが出来ました。

活動のねらいとポイント

障害児の中でも少数派である聴覚障害児にとってコミュニケーションの壁は高いです。聴覚障害児の保護者の9割は健聴であり、その中でも保護者が手話のスキルを持っている場合は限られています。そのため、聴覚障害児を子に持つ家庭でのコミュニケーションは難しく、親子で活動を共有し楽しむことのための方法が模索されています。そこで、本活動では東松島の自然を生かしつつ、聴覚障害児が自然体験とスポーツ体験を伸び伸びと行い自己肯定感の向上を図ることを目的とします。さらに、活動に取り組む子どもたちの姿から保護者も子との対話の可能性を実感してもらうことも活動のねらいとしています。



イカダ作り



具体的なプログラム名	主なポイント
聴覚障がいがある子どものコミュニケーション力・自己肯定感向上	聴覚障がいがある子どもが自然体験やスポーツ体験による共同作業や社会参加・成功体験によるコミュニケーション力向上やロールモデルや同じ障害がある仲間との成功体験による自己肯定感向上・社会性の向上を図る。
聴覚障がいがある子どもと被災地域の人々との自然体験を通じた多様な交流	東松島の自然体験をロールモデルや被災地域の人々と共に楽しむことで多様な交流を意図的に図る。またスポーツを通した一体感や地域ボランティア等との交流により認め合い支え合う心の育成を図る。生きぬく力を育む。
地域への障害理解及び啓蒙活動	聴覚障害児とロールモデルが地域住民と共に活動及び交流することでの障害理解及び啓蒙活動を行う。東松島の自然の中で活動することで互いにコミュニケーションの壁を越えていく。

参加者の安全対策・健康管理

＜安全対策＞ ・事前現場確認により、活動の安全確保に努める。・運営スタッフ担当や役割確認を徹底し、安全確保に努める。・怪我等発生時マニュアル作成。・事前体調確認を徹底し感染症等の拡大予防対策に努める。・看護師スタッフを配置し、参加児童の急な怪我や体調変化に備える。

＜健康管理＞ ・運営スタッフ及び参加者の事前健康確認を徹底し感染症等拡大予防に努める。・参加者全員の当日の抗原検査を実施する。・体調不良等発生時マニュアル作成。・体調チェックシートを作成し1日目・2日目の健康確認をする。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/29	13:00	開会式・イカダ作り説明・グループ分け（酷暑の為室内で実施）
	13:20	移動（キボッチャ→月浜海岸）
	13:40	イカダ作り（追加実施）
	14:30	4グループごと順に出航（船に乗ることが出来ない参加児は伴走船に乗船）500m先の無人島を目指す
	15:30	無人島到着。（満潮の為砂浜が狭く、ビーチサッカーは中止）
	16:00	月浜へ移動開始（伴走船2艘にてピストン移動）
	16:30	イカダ作り終了・宿舎へ移動
	17:00	休憩・入浴
	18:00	夕食
	19:00	オンライン交流会（追加実施）（テンブル大学のアメリカ人ろう者と国際交流：アメリカ手話に触れる）
	19:30	震災講話（語り部から震災を学ぶ：手話通訳付き）
	20:00	コミュニケーションスキル交流（ロールモデルと共に相手を知るためのコミュニケーション実践）
	21:00	就寝

月/日	時間帯	プログラム内容
7/30	6:00	起床
	6:30	朝食
	8:00	出発→刺し網漁へ。現地にて注意事項確認・準備・グループ分け
	8:30	刺し網漁開始・地域漁師との交流（手話通訳配置）
	9:00	東松島の自然について聞く。（船上） 震災の話は漁師さんから聞く。（船上） 刺し網漁開始
	10:00	帰港 網から魚を取る 宿舎へ移動
	10:30	釣果で調理 地域ボランティアと共に釣果を捌く。（お手本を見る→実践） 魚の捌き方を体験し食べる。
	11:30	昼食（手話通訳配置） 地域ボランティアと共に交流しながら食べる。震災の話聞く。片付け
	12:30	

活動の成果と課題

聴覚障がいを持つ子どもたちと地域の人々が、豊かな自然の中で心を通わせた感動的なキャンプが開催されました。東日本大震災の傷跡が残る東松島市を舞台に、子どもたちは海でイカダを作り、自分たちで取った地元の魚を地域の人々と調理するなど、貴重な体験を積みました。最初は緊張していた子どもたちも、次第に笑顔を見せ、仲間との絆を深めていきました。聴覚障がいという壁を越え、地域の人々との交流を通して、子どもたちは自信と勇気と学びを得ることができました。このキャンプは、自然の素晴らしさ、人の温かさ、そして可能性を教えてくださいました。SDGsにも多く関わるこの取り組みが自然な形で実現出来た事に大きな成果を感じます。



出航

団体概要

＜設立年月＞ 2006年7月

＜設立の経緯＞ 『支援を必要とする人と社会をつなぐかけ橋となり、互恵の精神を社会に広げます』を理念に掲げ、障がいのある人もない人もみんなが等しく素敵な人生を送れるような社会づくりを目指し、自動販売機による募金活動を全国に配置。草の根的に活動を継続している。現在全国に約600台の自動販売機を有し、赤い羽根共同募金を通して全国の福祉機関等へ寄付活動を行っている。2020年福祉事業部を開設し草の根的な当事者活動支援を開始。障害者スポーツに特に重点を置いている。

＜目的＞ 「誰もが住みよい福祉社会」を実現するため、「心のバリアフリー」の啓蒙と継続的に広範囲な募金システムの普及を図り、福祉社会の構築に寄与することを目的とする。

＜構成＞ 代表理事・専務理事（団体運営総括）・事務（主に経理）・理事及び監事

「田んぼの学校」指導者養成研修（里山環境教育編）in 茨城

＜実施団体＞ 一般社団法人 地域環境資源センター

- 活動期間 2023年6月27日（火）～6月28日（水） 宿泊2回
- 活動場所 茨城県県南生涯学習センター5階 小会議室1
- 募集地域 全都道府県・関係市町村・全国NPO支援センター・環境保全活動団体・「田んぼの学校」実施団体等
- 募集対象 一般成人
- 募集方法 チラシ、広報誌（季刊JARUS）、その他（団体ホームページ、メルマガ）
- 構成員数 5名

活動を通してのSDGsへの取り組み

「田んぼの学校」は、「環境に対する豊かな感性と見識を持つ人を育てること」、「自然と人との共生、都市と農村の共生への途（みち）をさぐること」をねらいとしています。この活動に関わる方々が、田んぼ周りの環境を大切にすることで、陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の促進、生物多様性の損失の防止につながると考えています。

活動のねらいとポイント

本活動では、「田んぼの学校」（農業農村の多面的機能を活用した環境教育）の基本的な理念の他、指導者として「田んぼの学校」を実施する際に必要な農業や生態系、自然体験活動などの知識や技術を体得することを目的とします。また、活動中は「田んぼの学校」を実施しようとする地域や人びとが持つ知恵や経験、そして自然環境を意識的に活動に生かしていけるよう啓発に努めます。また、この活動で学んだ指導者が各地域で質の高い活動を展開することで、地域に住む子ども達の人間性や社会性、地域への郷土愛育成に資することも目標とします。



生き物調べ 環境教育プログラムの指導法を体験中



室内講義 安全管理

「田んぼの学校」の研修で必ず実施する1コマです

具体的なプログラム名	主なポイント
農業農村の魅力再発見	茨城県土浦市の「認定NPO法人穴塚の自然と歴史の会」の取り組みから、自然の宝庫であり、農が営まれ、歴史的な遺跡や文化財も点在する「穴塚の里山」を生かした「環境教育」について学ぶ。地域や里山（＝農業農村）の魅力を再認識し、その土地ならではの自然環境、歴史、文化を生かした環境教育活動への理解を深める。
安全指導と安全管理（里山編）	里山（＝農業農村）で実施する活動全体のリスクマネジメントへの意識づけを行う。田んぼ周りや水路等で起こりうる事故、特に子供に対する事故の予防と対応についての基本的な心構えと実践的な救急法を習得する。農業農村での活動に対応したリスクマネジメント講習が少ないため、研修後の評価が高いプログラムである。
体験活動の基礎技術（環境教育プログラム実習）	穴塚里山で小学校や地域住民と連携して実施している田んぼや畑など里山環境を活用した環境教育プログラム「田んぼの学校」に実際に参加し、実践の手順から、子供達に対する具体的な安全管理、指導法やフィールドマナーについて学ぶ。さらに、農の営みや里山の保全によって守られてきた豊かな生態系についても理解を深める。

参加者の安全対策・健康管理

＜安全対策＞ 参加者に傷害保険への加入を義務づけ、主催者として賠償保険にも加入。事前に現地下見と指導者との打合せを行い、感染症対策を含め安全に研修会が実施できるよう十分検討する。当研修での安全対策について、参加者に対して事前案内及び研修当日に具体的に説明する。「安全対策」の講義を活動プログラム内で実施する。

＜健康管理＞ 参加者に対して、健康チェックシートの記入をお願いし、研修開始時と就寝前に検温等の健康観察を行うなど感染症対策を徹底する。野外では帽子着用、水分補給等適宜注意を促し、熱中症対策にも努める。救急搬送先など、近隣の医療機関と参加者の緊急連絡先について情報を得ておく。救急用品を持参する。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6/27	12:30～13:00	集合、受付
	13:00～13:20	開会（挨拶、趣旨説明、スタッフ紹介、オリエンテーション）
	13:20～14:10	体験活動の基礎技術（活動の導入手法） アイスブレイクの技術、参加者同士の相互理解など
	14:10～15:50	体験活動の基礎技術（環境教育プログラム実習） 田んぼや身近な自然、さまざまな地元の素材を活用した環境教育プログラムの指導法やフィールドマナー、農村の自然環境について実際のプログラムを体験して学ぶ。農業農村の魅力再発見（地域の郷土愛を育む）
	16:00～16:40	豊かな自然と文化を次世代の子ども達に伝え、地域で担い手農家を育成。地域一体で取り組む環境教育「おらだ田んぼの子ども博士養成講座」について学ぶ。
	16:50～17:30	農業農村の魅力再発見（地域の魅力再発見）～山形県河北町元泉地区 農村環境保全の取り組み～ フィールド実習、地域の歴史、文化、自然、人材を生かした活動への理解を深める。
	19:15～20:45	「田んぼの学校」等の事例紹介・情報交換会

月/日	時間帯	プログラム内容
6/28	8:00～9:00	集合、受付
	9:00～9:40	体験活動の基礎技術（安全指導と安全管理（田んぼ・水路編）） 事業全体のリスクマネジメントへの意識づけを行うほか、農業農村における、特に子どもに対する事故の予防と対応、感染症対策についての基本的な考え方や実践的な救急法を学ぶ。
	9:50～10:50	「田んぼの学校」の概要、自然体験活動の理念、指導者の役割など
	11:00～12:00	地域資源の見つけ方～農村の環境と地域資源～ 農業農村の生態系について基本的な知識を習得、理解を深め、環境教育の重要性について学ぶ。農業農村の多面的機能を活用した「地域づくり」についても学ぶ。 【体験・見学等】元泉地区フィールド見学
	13:00～14:00	ふりかえりと閉会
	14:00～14:30	終了・解散
	14:30	

活動の成果と課題

今回の研修では、実際に指導者という立場で環境教育に関わる団体代表とそれら活動をサポートしている行政機関の受講者が大半を占めたため、基礎的な環境教育の知識から実践的な学習会の運営技術まで幅広く習得できるプログラムになるよう工夫しました。

受講者は、先進的な地区の取組を実際に体験したことで、レベルの高い知識や技術を体得できただけでなく、地元での次の世代へ繋げていく活動を効果的に展開するヒントや工夫も得たようです。

農業農村やそれぞれの地元の魅力についても研修を通して改めて「気づき」を促すことができました。

一方、ふりかえりでは、受講生それぞれの活動をもっと紹介する機会があってもいいのではないかという意見も出ましたので、参加者同士の情報交換の機会をもっと取り入れるようにしたいと思います。



体験活動の基礎技術
穴塚「田んぼの学校」
生きもの調べ



里山の生態系と環境教育

団体概要

＜設立年月＞ 平成3年8月12日

＜設立の経緯＞ 平成3年8月12日、民法第34条の規定に基づき農林水産大臣の設立許可を得て「社団法人農村環境整備センター」として発足。平成23年1月11日付で農林水産省の認可をうけ、社団法人 地域資源循環技術センター（昭和58年8月1日、民法第34条により農林水産大臣が設立許可）と合併し、平成23年4月1日より新たに「社団法人地域環境資源センター」として発足。平成25年4月より「一般社団法人地域環境資源センター」に移行。

＜目的＞ 農業集落排水施設及び有機性資源利活用施設の整備、並びに農村地域の環境整備と保全及び活用に関する技術開発、調査研究、試験、普及啓発、人材育成などの事業を進めることにより、循環型社会の形成及び農業・農村が有する多面的機能の維持・継承を図り、地域社会の健全な発展及び国土の保全に寄与することを目的とする。

＜構成＞ 役員（15名）、研究員及び事務職員（36名）の団体構成員を有する。

第4回「グッジョブ！やるキッズ！」

＜実施団体＞ くまもと中小企業魅力発信委員会

- 活動期間 2023年11月12日（日）
日帰り1回
- 活動場所 熊本市商店街 新市街アーケード
- 募集地域 熊本県熊本市
- 募集対象 小学生（1～6年生）
- 募集方法 チラシ（配布先：熊本市の全小学校）
- 構成員数 10名

活動を通してのSDGsへの取り組み

22業種の職業体験を通じて「仕事のおもしろさや大変さ」を知ってもらい将来の選択肢を増やしてもらうとともに、働いた対価が給料であり、給料を得てこそ消費活動ができるという経済活動の疑似体験も経験してもらいます。これにより金融リテラシーを高め、体験を通じた質の高い【教育】に取り組んでいきたいと思っています。



信用金庫のおしごと

活動のねらいとポイント

仕事の面白さや難しさを知るとともに、将来の選択肢を増やしてもらうことが最大の目的であるが、もう一つの側面に熊本の中小企業の課題である人材不足の解消がある。原因は知名度の低さにあり、高校を卒業し、就職する学生の内、半数近くが県外に就職している実態がある。熊本にも素晴らしい企業があることを知ってもらい、人財を熊本に残すことを目的としている。

具体的なプログラム名	主なポイント
22業種の職業体験	中小企業約22社が、ブースを設置し、参加者は各職業の模擬体験を行なう。
お金の流れを知ろう！	参加する子供達は働くことで、対価として給与をもらい、その給与は金融機関に振り込まれる。受け取った模擬紙幣（仮想通貨）で、経済活動も学んでもらう。
中小企業のPR	熊本の光り輝く中小企業の魅力を小学生の頃より知ってもらい、将来の選択肢を増やしてもらう。

参加者の安全対策・健康管理

＜安全対策＞ 会場はアーケード内のため天候の影響は受けない。開催時間においてはアーケード内への車両の通行はないが、道路と交差する部分は車両の通行があるため警備員を配置する。体験内容に危険なものはなく、簡単な作業程度であり、指導員の指導のもと体験を実施する。

＜健康管理＞ コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症の状況次第ではあるが、入場時に非接触型体温計による検温や健康状況のヒアリングを行い、マスク着用、アルコールによる手指消毒などにより感染症対策を行う。またイベント中に体調不良となった場合は、早期に帰宅を促す。気温差については各自着衣にて対応するよう促す。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
11/12	7:00～8:30	準備
	8:30～	受付開始
	8:30～9:00	開会式・セレモニー
	9:00～17:00	体験活動（9:00～10:30、10:45～12:15、13:30～15:00、15:15～16:45の4回、各回150名） 参加者（小学生）は下記22社22業種の中から1時間30分の間に興味のある4～5業種を選び体験する。 ①信用金庫（札勘定体験）②住宅メンテナンス（建物検査）③塗装業（塗装、下地処理）④デザイン業（クリスマスカード制作）⑤FP（株式投資をやってみよう）⑥クリエイター（Instagramの画像作成）⑦自動車整備（エンジンの仕組み、整備体験）⑧お掃除（特別な道具を使ったお掃除）⑨モデル業（ウォーキング体験）⑩お花屋さん（ハーバリウム作り）⑪内装（クロス貼り体験）⑫美容業（メイク体験）⑬発明工夫（電子回路の制作）⑭弁護士（刑事模擬裁判）⑮司法書士（会社をつくる）⑯洋菓子店（クッキーにデコレーション）⑰建設業（建物修繕）⑱お菓子屋（ナッツボール作り）⑲整体（腕・足のマッサージ体験）⑳花・みどり（ドライフラワーブーケ作り）㉑病院（清潔処置、診察）㉒障がい者支援（障がいについて知る） 参加者は、各職場（ブース）で働き（体験）、その対価として給与がある。 給与は基本給＋能力給の総額で支給され、参加者は給与明細を受け取るようになる。 給与明細を金融機関の入出金ブースに入場券代わりの模擬通帳とともに持参すると給与が入金処理される。入金された給料は模擬紙幣として払い出すことができ、体験終了後駄菓子を購入することができる。これは「働く対価が給料であり、その給料で生活できる」という経済活動もあわせて体験してもらうためである。
	17:00～	撤収

活動の成果と課題

コロナ禍の収束に伴い4年ぶりの開催となりましたが、定員600名に対し2,411名の抽選申込みがあり、内当選した639名が参加し、93%の方より「満足」以上の評価をいただきました。またアンケートでは「様々な職業があり、仕事に興味を湧いた。」「親も勉強になった。」「家族で仕事に対し話すきっかけになった。」「お金の流れがわかった。」などの回答があり、当会の目的に対し一定の成果が得られました。しかし、会場の都合で出展可能な企業数も限られており、「参加（体験）したい」と思っている子どもたちを十分受け入れられないことが課題であり、会場の見直しや出展可能な企業への声掛けを行いさらに当イベントを進化させ持続可能な社会の実現に取り組んでいきたいと考えています。



給与を通帳に入金



働いた給料でお買い物

団体概要

＜設立年月＞ 平成29年3月1日

＜設立の経緯＞ 熊本の中小企業が抱える課題の一つに人材不足があり、原因は中小企業の知名度の低さにある。問題を解決するには、中小企業の仕事や業種を子供達、保護者、学校関係者に知ってもらう必要があると考え、熊本の中小企業の魅力を広く伝えようと、中小企業経営者有志と熊本信用金庫にて設立した。

＜目的＞ 子供達に様々な中小企業の職場体験を通じ、将来の選択肢を増やしてもらうこと。熊本の中小企業の魅力を知ってもらうこと、県外への人財流出を防止すること。

＜構成＞ くまもと中小企業魅力発信委員会は、代表1名、副代表1名、会計1名、会員7名 計10名で構成している。委員会は熊本の中小企業経営者と熊本信用金庫職員で設立しており、各企業の従業員が当日スタッフとして従事する。

お絵描きコミュニケーションと宇宙船地球号ミッション！

＜実施団体＞ 特定非営利活動法人 こどもサポートふらの

- 活動期間 2023年11月19日（日）～3月3日（日）
日帰り3回
- 活動場所 中富良野町や南富良野町の公民館など公共施設
- 募集地域 北海道上富良野町、中富良野町、富良野市、
南富良野町とその近郊
- 募集対象 小学生（1～6年生）、中学生
- 募集方法 チラシ（配布先：学童、図書館など）、
ポスター（掲示先：公共施設）、その他（SNS）
- 構成員数 12名

活動を通してのSDGsへの取り組み

目標4（質の高い教育）について、普段、対話や環境教育を学ぶ機会が限られる中、その教育格差を是正することを目指しました。また、目標17（パートナーシップ）では、グループワーク、及び他地域との交流を通じ、協働して問題解決を図ることも目的としました。

活動のねらいとポイント

多様になる社会においても活躍できるように、表現方法等の練習を始め、オンラインを活用し、地域を超えた交流を行います。言葉だけでは表現し辛い気持ちなども文字に頼らない記録方法（グラフィック・レコーディング）を学び、異なる意見であっても違いを楽しみ、傾聴できるようになることが目的です。個々がリーダーシップを発揮し、自発的な行動のきっかけになることを目指します。



アイデアの見直し会議



お絵描き 高学年
グラフィック
基礎練習

具体的なプログラム名	主なポイント
①お絵描きコミュニケーション	見聞きしたことを、可視化し共有するグラフィック・レコーディングを学ぶ。自分の思考整理にも利用できる。日常的に役立つ技術を習得する。
②宇宙船地球号ミッション！	地球環境を身近なものにかみ砕く。暮らしとのつながりを理解する。幸せや大切なものを考える。他会場とオンラインで交流する。傾聴や対話の練習も行う。
①②共通	①②を通し、理解が深まる経験をする。多様な話し合いの場でも活用できる手法を習得する。リーダーシップを育み自発的な行動を育むことを目指す。

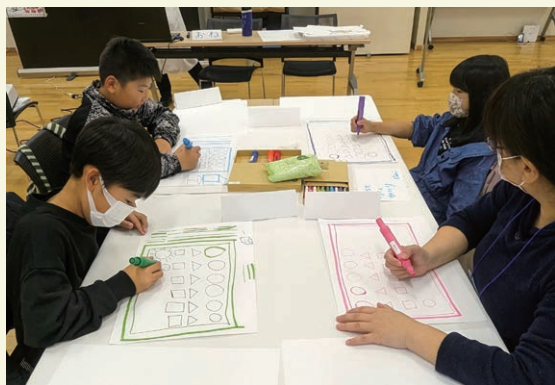
参加者の安全対策・健康管理

＜安全対策＞ 感染症対策として、手洗い、アルコール消毒、こまめな換気を心掛ける。また、会場内の座席の距離も配慮し、会場内での密をさける。

＜健康管理＞ 風邪症状や発熱がみられる場合は、参加を見送っていただけるように、体調管理・事前案内を徹底する。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
11/19	10:00～ 10:15～ 10:40～ 11:30～ 12:15～ 12:30	①-1 お絵描きコミュニケーション【高学年の部】 アイスブレイク グラフィック・レコーディングとは（概要説明） 早速描いてみよう！（実践） ・ペンの使い方、基本的な図形、色の印象など ・グラフィックを用いた「自己紹介」練習 実際に描いてみる、発表タイム 質疑応答 解散・片付け
	13:30～ 16:00	①-2 ※お絵描きコミュニケーション【低学年の部】午後は、上記と同様のプログラムで開催



お絵描き 低学年 グラフィック基礎練習

月/日	時間帯	プログラム内容
2/25	13:00～ 13:10～ 13:30～ 15:00～ 15:45～ 16:00～ 16:30	②-1 宇宙船地球号ミッション！ Day1 中富良野と南富良野（2会場 × 各3グループ） ・参加者が3名が1チームになり、各チームを大人2名がサポート。 ・オンラインで本部と各地域をつなぎ交流し、意見交換も行う。 オリエンテーション（チーム紹介、進め方などのアナウンス） 研究のための準備運動（全体ワーク、グラフィックの基礎） 持続可能な社会のために【幸せや大事にしたいことを考える】【ロケットのコンセプトを考える】 【幸せについて掘り下げる】 次回に向けて自主研究の案内後、本日の研究の振り返り（感想や次回に向けての気持ち） 通信終了後、自由交流の時間 解散
3/3	13:00～ 13:15～ 13:45～ 15:30～ 16:15～ 16:30～ 17:00	②-2 宇宙船地球号ミッション！ Day2 中富良野と南富良野（2会場 × 各3グループ） チェックイン（今日のアナウンス） 初回の振り返り（一日目の掘り下げ） 共同研究（交流）対話や話し合いの時間 科学者の発表 発表のまとめ方練習＝グラフィック ロケット（交流）準備・発表会（各地との交流） 本日の研究の振り返り（感想や次回に向けての気持ち） 通信終了後、自由交流の時間 解散

活動の成果と課題

子どもたちが楽しみながら学べる仕掛けや声掛けを準備したことで、絵が苦手でも、抵抗なく積極的に参加する姿勢が見られました。また、グループワークでは他者の発言をよく聞き、他グループと交流・意見交換することで、異なる視点や意見にも触れ、多様な考え方・違いも受け入れる経験ができました。話し合いの方法や文字（言葉）だけに頼らない表現方法があることを学ぶことで意思疎通の方法の幅も広がり、コミュニケーションの質もアップした様子が見受けられました。学校やクラブ活動など日々の話し合いにも役立つことができそうと、具体的な感想ももらえ、本事業の手ごたえを感じました。



他地域とのオンライン交流・意見交換

お絵描き 高学年 自己紹介で実践



団体概要

＜設立年月＞ 平成24年10月19日

＜設立の経緯＞ 母親たちが支え合うため、病児や緊急時に対応する有志による預り合いがスタート。2013年にNPO法人として認定。後に自治体のファミリーサポートセンター事業を受託運営。他に、保育出張事業や子育てプログラムを提供し、親同士の仲間づくりにも繋がり、子育てによる困難感の緩和をはかる。

＜目的＞ 人々との豊かな関わりや豊富な地域資源を活用し、豊かな育ちを支えるための事業を行い、豊かで幸せな未来を築く力をもつ子ども達の育成はもちろん、地域の絆を深め、安心・信頼・幸せを感じられるような地域社会の実現を目的として設立された。

＜構成＞ 理事長以下、役員および社員11名

見えない見えにくい子どもと本をつなぐ

＜実施団体＞

NPO法人弱視の子どもたちに絵本を

- 活動期間 2024年2月25日（日）
日帰り1回
- 活動場所 豊中市立岡町図書館
- 募集地域 大阪府内、近畿圏の近隣地域
- 募集対象 高校生、一般成人、保護者
- 募集方法 チラシ（配布先：視覚障害者福祉団体、図書館など）、
ポスター（掲示先：豊中市立図書館全分館、
阪急電鉄宝塚線3駅構内）、
その他（HP、視覚障害児者関連団体 ML）
- 構成員数 10名

活動を通してのSDGsへの取り組み

図書館や学校で全盲や弱視の子どもの読める本はわずかです。絵本や美術、画像の共有も十分な方法を検討もされていない現状を広く周知できます。一方、三輪氏から、全盲の視点から現状を知らしめるだけでなく、実施されている読書やあそび、美術鑑賞の取り組みから、誰もが尊重される公平な世界の豊かさを学びます。（目標4、10）

活動のねらいとポイント

児童書の中の絵は役割も量も大きく、視覚障害児にとり、絵も画像もないもの、触る絵本や翻案として言葉を加える試みが続きます。「みえなくなったちょうこくか」の著者、全盲の三輪途倫氏を迎え、二冊の絵本の出版の話、粘土画のワークショップ、インクルーシブな美術鑑賞活動などの話など伺い、これからの見えない人の絵本や美術、読書支援の在り方を考えます。



粘土の絵ワーク



粘土絵の制作デモ

具体的なプログラム名	主なポイント
絵本「みえなくなったちょうこくか」の著者の話を聞く	弱視から全盲になった彫刻家の三輪氏と、ライターの立木氏の絵本の制作の意図や思いなどを聞く。
「見えない」とはどんなことか	見える、見えにくい、見えないを生きてきた三輪氏は、「見えない」が想像と違うと実感した。自分を「見える側」と「見えない側」の両方の立場にいと考える。
「見えない子どもに伝わる本を考えるワークショップ	絵本には、見えていた時と、見えなくなってからの作品が登場している。作品を触り、また粘土制作のワークショップなどを通して、読書支援を考える。

参加者の安全対策・健康管理

＜安全対策＞ コロナ感染の継続が懸念される。コロナ対策の基本、換気、消毒、人の間隔、健康状態のチェックなどの徹底をおこなう。

＜健康管理＞ コロナ対策をした上で、温度管理、換気などの体調が悪くならないような配慮を行う。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
2/25	10:30～15:00	【講演会とワークショップ】 全盲の彫刻家 三輪さんと共に「見えない・見えにくい・見える・さわる」を考える 誰にも絵本の喜びが届くために・・・見えない見えにくい子どもと本をつなぐために 講師：三輪途道さん（彫刻家） 立木寛子さん（ライター） 1. 絵本「みえなくなったちょうこくか」のおはなし（本の成り立ち） 木彫分野で彫刻家として活躍した三輪さんが、視力を失う中で、出版したロービジョンブック。見えにくさの中で、弱視の人が読める本がないという現実やその製作の難しさ、有効性についてのお話、更に、全盲になってからの本の出版の思いなどを伺う。 2. 「見えない」とはどんなこと？ 講師のお話と参加者と意見交流 見えなくなった当時、自分のこれまでの彫刻の技が全て失われた時はどん底だった。そのうち、見えなくても自分は彫刻家としてやれることがあると、粘土を使った制作を始める。その過程で、見えない人も楽しめるアート、見えない見える見えにくいにこだわらないアート鑑賞は可能だ。様々な人がいるから、より鑑賞が深まる。上毛カルタは、見える人の物というところを超えて、触るカルタを作ることで、触ると言う大きな感覚を感じる人も取り戻すように、使う機会となる。絵本も、触る絵本の形を目指している話を聞く。 3. 「見えない子どもに伝わる本を考えるワークショップ（粘土を使った三輪さんの制作実演）」 三輪さんが制作したさわる原画から発想して谷川俊太郎氏が詩を書き生まれた詩と絵の本『かべとじめん』 原画を見る、さわる、詩を読む、これを開始前、終了後に、体験する。詩、絵、点字、墨字と合わせて触る見る。参加者が見えるか、見えないかのバリアを超えて、その表現されているものをうけとめてみる。さわる彫刻さわるカルタも体験してみる。見えないことからの可能性、どんなこれからを、望んでいくかを話し合う。

活動の成果と課題

三輪氏は全盲で出来ること、触る彫刻、絵本「みえなくなったちょうこくか」、触る原画からの本「かべとじめん」、触るカルタなど制作だけでなく、アートを諦めている視覚障害者向け「見えない人、見えにくい人、見える人、みんなで楽しむアート・対話の鑑賞」を開始します。「アートと見えない人をつなぐインクルーシブアートコーディネーター」の必要を感じ、養成も開始します。読書も見える人から見えない人へ方向でなく、「本を間に対話で読む」さらに、「スキルを養ったコーディネーターの必要性」という大きな示唆を受けました。参加の視覚障害当事者、子ども読書活動、点訳、音訳、さわる絵本などの人と、今後のバリアフリー読書の課題とします。



触察できる猫



お話を聞く



詩画集さわる原画

団体概要

＜設立年月＞ 平成 22 年 3 月 26 日

＜設立の経緯＞ 視覚障害児のためにわんぱく文庫が点訳、音訳の本を提供してきましたが、弱視の子どもへの本の提供は、課題として残ったままでした。教科書を除けば、書店にも公立図書館にも拡大本は殆どなく、通常の本では読むことができない子どものために、多媒体や配慮ある本の制作など、読書環境の充実に向け NPO 法人を設立しました。

＜目的＞ 通常の活字本では読めない子どものために、多媒体（拡大本、点訳本、マルチメディアデジ、さわる絵本、LL ブックなど）への本の製作やユニバーサルな本の制作や取り組みが動き出しています。どの子ども、自由に本を選び、本を読むことができ、生涯にわたって個人の読書が保障されることを目指しています。

＜構成＞ 理事長以下 10 名。子どもと本に関わってきた者が殆どです。視覚障害当事者も 2 名含まれています。大阪と埼玉に関係者があり、音訳、製本、拡大本、さわる絵本などのベテランのボランティアからの協力を受けています。また新たに、触る絵本、拡大本製作ボランティアの養成講座を開催し製作ボランティアが生まれています。

えほんで楽しくファンタジア

＜実施団体＞ フリューリング絵本部「ファンタジア」

- 活動期間 2023年10月23日（月）～3月15日（金）
日帰り6回
- 活動場所 札幌市えほん図書館
- 募集地域 北海道札幌市
- 募集対象 未就学児（1～5歳）、小学生（1～6年生）、保護者
- 募集方法 チラシ（配布先：札幌市内公共施設・児童館・店舗他）
その他（新聞）
- 構成員数 13名

活動を通してのSDGsへの取り組み

フリューリング絵本部「ファンタジア」は絵本の読み聞かせで「新しい世界を知って楽しい！」を体感していただき、持続可能な開発目標（SDGs）4「質の高い教育をみんなに」に取り組んでいます。

活動のねらいとポイント

子どもに新たな世界を発見してもらうため、季節にあった絵本の読み聞かせを行う他、わらべ歌や手遊びも加え小さな子の集中力を考えたプログラムで構成します。後半は折り紙やシールを楽しみます。読書と繋がる面白さを感じて頂きます。保護者の方の絵本や選書のご質問などにもお答えします。ご家庭でも絵本を楽しめるようアドバイスを行います。



季節に合わせた読み聞かせ



回を重ねるごとに参加者が増えました

具体的なプログラム名	主なポイント
絵本の読み聞かせ	季節に合わせたテーマを設け、絵本を選書します。様々なジャンルの絵本を織り交ぜ、リアルな世界を色々な視点から見る面白さや魅力を感じて頂きます。
わらべ歌・手遊び	「図書館は楽しい」、「また絵本を見に行きたい」と感じる構成にします。親子でいつでもコミュニケーションがとれる提案もしていきます。
折り紙・シール貼り・ 絵本アドバイス	物語に登場した動物や食べ物などを作りお持ち帰り頂く事で、より楽しさが印象として残り積極的な読書へ導きます。ご家庭でのアドバイスも行います。

参加者の安全対策・健康管理

＜安全対策＞ 小さなお子さんの行動にも目が行き届くようにスタッフの人数をしっかりと確保して行います。また、会場の避難経路や緊急時の対応を事前に確認し全員で共有します。

＜健康管理＞ 走り回らないよう事前に注意喚起を行うとともに、道具を使用する時はスタッフが手分けをしてしっかりと見守ります。救急セットなども準備して臨みます。

活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
10/23	9:45	スタッフ集合
	9:50	会場準備
	10:15	リハーサル
	10:45	受付開始
	11:00	絵本読み聞かせ会
	11:30	折り紙ワークショップ
	11:50	手遊び
	12:00	終了、片付け
	12:30	反省会
	14:00	解散
※11/10、12/15、1/29、2/19、3/15も同様のプログラムを実施		

活動の成果と課題

何歳のお子さんが参加しても楽しめるように選書したほか、手遊びや大型絵本・紙芝居などを取り入れながら練習を重ねて本番に挑みました。その結果、親子で楽しめる口コミで広がり、回を重ねるごとに参加者が増え行列ができる読み聞かせ会となりました。時には不登園や不登校のお子さんも来て下さるようになりました。後半の「折り紙」のテーマは絵本に関連する季節のものです。事前に折り目をつけておくなどの工夫をし、できるだけ小さなお子さんが自ら折れるように準備しました。完成作品を持ち帰れる事により、その後も絵本の楽しさの余韻に浸れ、ご自宅でも読み聞かせを楽しむご家庭が増えました。



プログラム選考と練習会



0歳のお子さんも折り紙を楽しめます



パパの参加も増えました

手遊びで会場に一体感がうまれます

団体概要

＜設立年月＞ 平成27年3月

＜設立の経緯＞ 2015年3月 絵本ボランティアキャリアのあるメンバーと絵本部「ファンタジア」設立
2015年4月 小学生への読み聞かせの他、図書ボランティア活動の保護者や幼稚園児の母親へ向けの講座スタート

＜目的＞ 子どもたちに「絵本」を通して様々な体験をしてもらいたい。デジタル化が進む中で、まずは母親たちに「絵本の魅力」を知ってもらう事が効果的。そのためには基本的な知識を知って頂くほか、「絵本」を通じて社会との交わりや自己啓発もしながら楽しく子育て出来る環境を作りたいと熱い思いでスタート。

＜構成＞ 代表：フリーアナウンサー・絵本ナビゲーター・絵本セラピスト® 岸 春江

※2014年7月：絵本セラピスト®資格認定 メンバー：12人

